

平成31年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		総合評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定			
1 学校運営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>① 専門教育を深化させるとともに、農・商併設のメリットを生かし、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりをチームとして推進する。</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を深め地域の教育力を生かした教育活動を展開する。</p> <p>③ 教職員研修の充実を図ることにより教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>④ 教職員が高い倫理観と使命感を持って業務にあたるとともに、業務の効率化に努めワーク・ライフ・バランスを図る。</p> <p>⑤ ホームページ等を活用し、積極的に教育活動に関する情報発信を行い、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 地域や社会に対応できる特色ある学校づくりの推進事業をチームとして推進</p> <p>② 「エンカル消費」の取組の推進</p> <p>③ 各教員が研修をとおして資質の向上</p> <p>④ 情報セキュリティポリシー遵守の徹底と出退勤管理システムの活用によるワーク・ライフ・バランスの適正化</p> <p>⑤ マスメディアを活用した広報やホーム</p>	<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者を増加させる。 600人以上</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を行う。 年間4回以上</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行う。 年間5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーの利用を有効に活用し業務の効率化を図るとともに、情報資産持ち出し管理シートの活用を実施する。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思を統一する。 ウイルスチェック 年6回以上</p> <p>④-3 出退勤管理システムを活用して、管理職が教職員の勤務時間を把握する。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年100回以上</p>	<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数 372人</p> <p>②-1 「エンカルバッグ」の作成にあたりデザイン工房と連携・調整を図った。 2回</p> <p>②-2 スーパーオンリーワンハイスクール事業「かもじま駅前にぎわいづくり」の事業説明や打ち合わせを行った。 2回</p> <p>②-3 「かもじま駅前にぎわいづくり」の開催 3回</p> <p>②-4 イチゴ、にんじんの生産農家での収穫 2回</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行った。 6回</p> <p>④-1 情報資産の取扱いについては、管理シートに持ち出す日付を記入するとともに押印し、返却後、日付を記入し、管理職が確認している。 100%</p> <p>④-2 ウイルスチェック 6回</p> <p>④-3 毎週、超過勤務の時間をチェックしている。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 101回</p>	<p>D</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数は昨年度の人数を上回ることでできなかった。その原因の一つとして、考査期間中の実施を取りやめたことや諸事情で1回中止をせざるを得なかったことが影響している。さらには天候によることが主な原因と考えられる。</p> <p>・ 地域や行政との連携においては、今年度、エンカルクラブやスーパーオンリーワンハイスクール事業を新規に行ったため、実施回数は目標を上回った。</p> <p>・ 研究授業の実実施回数は、今年度の初任者が2名だったため自ずと研究授業の回数も増加した。</p> <p>・ 学校ホームページの更新回数増加は今までになく、教職員の意識が高くなってきていることの表れと捉えている。ただ、更新回数は大事ではあるが、今後においては、ホームページの更新内容のさらなる充実が必要と考える。</p> <p>・ 働き方改革における超過勤務は、担当業務によっては致し方ない面もなくはないが、さらなる意識の変革が必要と考える。</p>	<p>○ 一般の人は学校に立ち寄りにくいイメージを持っているため、アグリ吉野川の開催はよいきっかけとなっている。スクールカフェ吉野川もまだ入りにくいので工夫が必要である。また、収穫祭は知らない人も多いため、SNS等(特にInstagram)でPRをした方がよい。ホームページでの発信も必要だとは思いますが、最近の若い人は主にInstagramで情報収集をすることが多い。</p> <p>○ SNSを使わない生徒は非常に少ない。学校をPRするためにも、学校でTwitterやInstagramなどSNSを用いた発信の練習を教員の目の届く範囲でしてみるとよいのではないかと考える。</p> <p>○ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の活動は、他校にはない取組であり、生徒が仕入れ値や利益を知ることができるのはおもしろい。人が興味・関心を持つようなイベントを企画してみてもどうか。</p> <p>○ お客様アンケートは従来の形式より、応援メッセージを募る方が、働いている人のモチベーションを上げるためには効果的だと考える。</p> <p>○ 地元企業と連携したり、値頃を知ったり、ポップをつけたりするなど、テーマを持って実験的にいろいろ試してみてもどうか。</p>	<p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数を増やすために、ホームページや事前のチラシ配布、掲示板の表示などを早めに行いPRを積極的にやりたい。</p> <p>・ SNSやInstagramでのPRも検討をしてきたい。</p> <p>・ 教職員の授業力向上を図るため、年間を通じた計画的な研究授業を行いたい。</p> <p>・ ホームページの更新は、全ての校務分掌や部活動においてまんべんなく更新を行いたい。</p> <p>・ エンカル消費を更に推進するためにエンカルクラブを中心に、取組内容を検討したい。</p> <p>・ 働き方改革を推進するために、教職員の勤務時間の把握に努めたい。</p>
		<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知する。</p> <p>②-1 「エンカルクラブ」を中心として、校内での発表の機会を設けることにより普及・啓発に努め「エンカル消費」の推進を図る。 2回以上</p> <p>②-2 「エンカルクラブ」を中心として、「エンカルグッズ」の配布を行う。 5回以上</p> <p>③ 研究授業の参観及び研究協議を実施し、授業力向上を図る。 5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図る。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図る。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用する。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動</p>	<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川を実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知した。 ホームページ掲載 2回 チラシ配布 2回</p> <p>②-1 6月の全校集会で「エンカル消費」について生徒にレジ袋削減に関する啓発を行った。 1回</p> <p>②-2 全国徳島県人会連合会総会や本校文化祭でエンカル消費に関する活動内容を発表するとともに「エンカルグッズ」の割り箸を配布し、エンカル消費の啓発を行った。 また、アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川、さらには東京で行われた全国高等学校家庭クラブ連盟主催第25回クリエイティブコンテスト授賞式の会場においても配布した。 5回</p> <p>③ 初任者2名が1学期に人権ホームルーム活動の研究授業を行った。2学期には、学校教育課の学校訪問時に商業科、理科の2科目、及び初任者2名の教科による研究授業をそれぞれ1回ずつ実施した。 6回</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図っている。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図っている。</p> <p>④-3 8月、9月の45時間を終える超過勤務者に対して、超過勤務削減について促した。1月末の時点では、45時間を超える超過勤務者に対し働き方改革の趣旨も含め理解を求めた。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動な</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・ 学校ホームページの更新回数増加は今までになく、教職員の意識が高くなってきていることの表れと捉えている。ただ、更新回数は大事ではあるが、今後においては、ホームページの更新内容のさらなる充実が必要と考える。</p> <p>・ 働き方改革における超過勤務は、担当業務によっては致し方ない面もなくはないが、さらなる意識の変革が必要と考える。</p>	<p>○ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の活動は、他校にはない取組であり、生徒が仕入れ値や利益を知ることができるのはおもしろい。人が興味・関心を持つようなイベントを企画してみてもどうか。</p> <p>○ お客様アンケートは従来の形式より、応援メッセージを募る方が、働いている人のモチベーションを上げるためには効果的だと考える。</p> <p>○ 地元企業と連携したり、値頃を知ったり、ポップをつけたりするなど、テーマを持って実験的にいろいろ試してみてもどうか。</p>	<p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数を増やすために、ホームページや事前のチラシ配布、掲示板の表示などを早めに行いPRを積極的にやりたい。</p> <p>・ SNSやInstagramでのPRも検討をしてきたい。</p> <p>・ 教職員の授業力向上を図るため、年間を通じた計画的な研究授業を行いたい。</p> <p>・ ホームページの更新は、全ての校務分掌や部活動においてまんべんなく更新を行いたい。</p> <p>・ エンカル消費を更に推進するためにエンカルクラブを中心に、取組内容を検討したい。</p> <p>・ 働き方改革を推進するために、教職員の勤務時間の把握に努めたい。</p>
		<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者を増加させる。 600人以上</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を行う。 年間4回以上</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行う。 年間5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーの利用を有効に活用し業務の効率化を図るとともに、情報資産持ち出し管理シートの活用を実施する。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思を統一する。 ウイルスチェック 年6回以上</p> <p>④-3 出退勤管理システムを活用して、管理職が教職員の勤務時間を把握する。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年100回以上</p>	<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数 372人</p> <p>②-1 「エンカルバッグ」の作成にあたりデザイン工房と連携・調整を図った。 2回</p> <p>②-2 スーパーオンリーワンハイスクール事業「かもじま駅前にぎわいづくり」の事業説明や打ち合わせを行った。 2回</p> <p>②-3 「かもじま駅前にぎわいづくり」の開催 3回</p> <p>②-4 イチゴ、にんじんの生産農家での収穫 2回</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行った。 6回</p> <p>④-1 情報資産の取扱いについては、管理シートに持ち出す日付を記入するとともに押印し、返却後、日付を記入し、管理職が確認している。 100%</p> <p>④-2 ウイルスチェック 6回</p> <p>④-3 毎週、超過勤務の時間をチェックしている。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 101回</p>	<p>D</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数は昨年度の人数を上回ることでできなかった。その原因の一つとして、考査期間中の実施を取りやめたことや諸事情で1回中止をせざるを得なかったことが影響している。さらには天候によることが主な原因と考えられる。</p> <p>・ 地域や行政との連携においては、今年度、エンカルクラブやスーパーオンリーワンハイスクール事業を新規に行ったため、実施回数は目標を上回った。</p> <p>・ 研究授業の実実施回数は、今年度の初任者が2名だったため自ずと研究授業の回数も増加した。</p> <p>・ 学校ホームページの更新回数増加は今までになく、教職員の意識が高くなってきていることの表れと捉えている。ただ、更新回数は大事ではあるが、今後においては、ホームページの更新内容のさらなる充実が必要と考える。</p> <p>・ 働き方改革における超過勤務は、担当業務によっては致し方ない面もなくはないが、さらなる意識の変革が必要と考える。</p>	<p>○ 一般の人は学校に立ち寄りにくいイメージを持っているため、アグリ吉野川の開催はよいきっかけとなっている。スクールカフェ吉野川もまだ入りにくいので工夫が必要である。また、収穫祭は知らない人も多いため、SNS等(特にInstagram)でPRをした方がよい。ホームページでの発信も必要だとは思いますが、最近の若い人は主にInstagramで情報収集をすることが多い。</p> <p>○ SNSを使わない生徒は非常に少ない。学校をPRするためにも、学校でTwitterやInstagramなどSNSを用いた発信の練習を教員の目の届く範囲でしてみるとよいのではないかと考える。</p> <p>○ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の活動は、他校にはない取組であり、生徒が仕入れ値や利益を知ることができるのはおもしろい。人が興味・関心を持つようなイベントを企画してみてもどうか。</p> <p>○ お客様アンケートは従来の形式より、応援メッセージを募る方が、働いている人のモチベーションを上げるためには効果的だと考える。</p> <p>○ 地元企業と連携したり、値頃を知ったり、ポップをつけたりするなど、テーマを持って実験的にいろいろ試してみてもどうか。</p>	<p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数を増やすために、ホームページや事前のチラシ配布、掲示板の表示などを早めに行いPRを積極的にやりたい。</p> <p>・ SNSやInstagramでのPRも検討をしてきたい。</p> <p>・ 教職員の授業力向上を図るため、年間を通じた計画的な研究授業を行いたい。</p> <p>・ ホームページの更新は、全ての校務分掌や部活動においてまんべんなく更新を行いたい。</p> <p>・ エンカル消費を更に推進するためにエンカルクラブを中心に、取組内容を検討したい。</p> <p>・ 働き方改革を推進するために、教職員の勤務時間の把握に努めたい。</p>
		<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知する。</p> <p>②-1 「エンカルクラブ」を中心として、校内での発表の機会を設けることにより普及・啓発に努め「エンカル消費」の推進を図る。 2回以上</p> <p>②-2 「エンカルクラブ」を中心として、「エンカルグッズ」の配布を行う。 5回以上</p> <p>③ 研究授業の参観及び研究協議を実施し、授業力向上を図る。 5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図る。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図る。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用する。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動</p>	<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川を実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知した。 ホームページ掲載 2回 チラシ配布 2回</p> <p>②-1 6月の全校集会で「エンカル消費」について生徒にレジ袋削減に関する啓発を行った。 1回</p> <p>②-2 全国徳島県人会連合会総会や本校文化祭でエンカル消費に関する活動内容を発表するとともに「エンカルグッズ」の割り箸を配布し、エンカル消費の啓発を行った。 また、アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川、さらには東京で行われた全国高等学校家庭クラブ連盟主催第25回クリエイティブコンテスト授賞式の会場においても配布した。 5回</p> <p>③ 初任者2名が1学期に人権ホームルーム活動の研究授業を行った。2学期には、学校教育課の学校訪問時に商業科、理科の2科目、及び初任者2名の教科による研究授業をそれぞれ1回ずつ実施した。 6回</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図っている。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図っている。</p> <p>④-3 8月、9月の45時間を終える超過勤務者に対して、超過勤務削減について促した。1月末の時点では、45時間を超える超過勤務者に対し働き方改革の趣旨も含め理解を求めた。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動な</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・ 学校ホームページの更新回数増加は今までになく、教職員の意識が高くなってきていることの表れと捉えている。ただ、更新回数は大事ではあるが、今後においては、ホームページの更新内容のさらなる充実が必要と考える。</p> <p>・ 働き方改革における超過勤務は、担当業務によっては致し方ない面もなくはないが、さらなる意識の変革が必要と考える。</p>	<p>○ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の活動は、他校にはない取組であり、生徒が仕入れ値や利益を知ることができるのはおもしろい。人が興味・関心を持つようなイベントを企画してみてもどうか。</p> <p>○ お客様アンケートは従来の形式より、応援メッセージを募る方が、働いている人のモチベーションを上げるためには効果的だと考える。</p> <p>○ 地元企業と連携したり、値頃を知ったり、ポップをつけたりするなど、テーマを持って実験的にいろいろ試してみてもどうか。</p>	<p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数を増やすために、ホームページや事前のチラシ配布、掲示板の表示などを早めに行いPRを積極的にやりたい。</p> <p>・ SNSやInstagramでのPRも検討をしてきたい。</p> <p>・ 教職員の授業力向上を図るため、年間を通じた計画的な研究授業を行いたい。</p> <p>・ ホームページの更新は、全ての校務分掌や部活動においてまんべんなく更新を行いたい。</p> <p>・ エンカル消費を更に推進するためにエンカルクラブを中心に、取組内容を検討したい。</p> <p>・ 働き方改革を推進するために、教職員の勤務時間の把握に努めたい。</p>
		<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者を増加させる。 600人以上</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を行う。 年間4回以上</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行う。 年間5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーの利用を有効に活用し業務の効率化を図るとともに、情報資産持ち出し管理シートの活用を実施する。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思を統一する。 ウイルスチェック 年6回以上</p> <p>④-3 出退勤管理システムを活用して、管理職が教職員の勤務時間を把握する。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年100回以上</p>	<p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数 372人</p> <p>②-1 「エンカルバッグ」の作成にあたりデザイン工房と連携・調整を図った。 2回</p> <p>②-2 スーパーオンリーワンハイスクール事業「かもじま駅前にぎわいづくり」の事業説明や打ち合わせを行った。 2回</p> <p>②-3 「かもじま駅前にぎわいづくり」の開催 3回</p> <p>②-4 イチゴ、にんじんの生産農家での収穫 2回</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行った。 6回</p> <p>④-1 情報資産の取扱いについては、管理シートに持ち出す日付を記入するとともに押印し、返却後、日付を記入し、管理職が確認している。 100%</p> <p>④-2 ウイルスチェック 6回</p> <p>④-3 毎週、超過勤務の時間をチェックしている。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 101回</p>	<p>D</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数は昨年度の人数を上回ることでできなかった。その原因の一つとして、考査期間中の実施を取りやめたことや諸事情で1回中止をせざるを得なかったことが影響している。さらには天候によることが主な原因と考えられる。</p> <p>・ 地域や行政との連携においては、今年度、エンカルクラブやスーパーオンリーワンハイスクール事業を新規に行ったため、実施回数は目標を上回った。</p> <p>・ 研究授業の実実施回数は、今年度の初任者が2名だったため自ずと研究授業の回数も増加した。</p> <p>・ 学校ホームページの更新回数増加は今までになく、教職員の意識が高くなってきていることの表れと捉えている。ただ、更新回数は大事ではあるが、今後においては、ホームページの更新内容のさらなる充実が必要と考える。</p> <p>・ 働き方改革における超過勤務は、担当業務によっては致し方ない面もなくはないが、さらなる意識の変革が必要と考える。</p>	<p>○ 一般の人は学校に立ち寄りにくいイメージを持っているため、アグリ吉野川の開催はよいきっかけとなっている。スクールカフェ吉野川もまだ入りにくいので工夫が必要である。また、収穫祭は知らない人も多いため、SNS等(特にInstagram)でPRをした方がよい。ホームページでの発信も必要だとは思いますが、最近の若い人は主にInstagramで情報収集をすることが多い。</p> <p>○ SNSを使わない生徒は非常に少ない。学校をPRするためにも、学校でTwitterやInstagramなどSNSを用いた発信の練習を教員の目の届く範囲でしてみるとよいのではないかと考える。</p> <p>○ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の活動は、他校にはない取組であり、生徒が仕入れ値や利益を知ることができるのはおもしろい。人が興味・関心を持つようなイベントを企画してみてもどうか。</p> <p>○ お客様アンケートは従来の形式より、応援メッセージを募る方が、働いている人のモチベーションを上げるためには効果的だと考える。</p> <p>○ 地元企業と連携したり、値頃を知ったり、ポップをつけたりするなど、テーマを持って実験的にいろいろ試してみてもどうか。</p>	<p>・ アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者数を増やすために、ホームページや事前のチラシ配布、掲示板の表示などを早めに行いPRを積極的にやりたい。</p> <p>・ SNSやInstagramでのPRも検討をしてきたい。</p> <p>・ 教職員の授業力向上を図るため、年間を通じた計画的な研究授業を行いたい。</p> <p>・ ホームページの更新は、全ての校務分掌や部活動においてまんべんなく更新を行いたい。</p> <p>・ エンカル消費を更に推進するためにエンカルクラブを中心に、取組内容を検討したい。</p> <p>・ 働き方改革を推進するために、教職員の勤務時間の把握に努めたい。</p>

ページの充実，学校行事の公開等，積極的な情報発信

などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう，ホームページの更新や充実を図る。

などを積極的かつリアルタイムな情報を提供するため，ホームページの更新や充実を図っている。

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成31年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
2 確かな学力の育成	(全体レベル) ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。  ② 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストとしての基礎をつくる。  ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。  ④ 主権者意識を高める教育を推進する。  ⑤ 消費者教育（「エシカル消費」を含む）を推進する。  (下位組織レベル) ① 基礎学力の向上に向けた取組の実施	評価指標 ①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上 ①-2 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストの実施 各学期1回  ①-3 学校評価アンケート ・生徒授業満足度 90%以上 ・職員授業充実度 90%以上 ・保護者学力向上・学習内容充実度 80%以上 ・基礎学力に向けた取組満足度 普通教科 80%以上 専門教科 80%以上 ・朝読週間生徒満足度 90%以上 ・授業における新聞の活用度 80%以上 ・定期考査期間中の家庭学習実施率 80%以上 ①-4 各種検定・コンクールへの積極的な受検・応募  ②-1 [農業] ・フラワー装飾・室内園芸装飾技能検定3級 生物活用科3年 受験率 100%  ・日本農業技術検定3級 農業科学科, 生物活用科1年 受験率 100% 合格率 90%以上 [商業] ・全商3級1種目以上 取得者 100% ・全商2級1種目以上 取得者 70%以上 ・全商1級1種目以上 取得者 30名以上 ・全商1級2種目以上 取得者 10名以上 ・全商1級3種目以上 取得者 5名以上 ・日商簿記2級合格 1名以上 ②-2 県商業教育協会主催の様々な競技会への積極的な参加 ③-1 公開授業週間の実施 各学期1回 ③-2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った研究授業の実施 年3回以上 ③-3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教科会の実施 年3回以上 ④-1 主権者教育に関するホーテムルーム活動や学校行事の実施 年3回以上 ④-2 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 80%以上 ⑤-1 消費者教育（「エシカル消費」を含む）に関する学校行事の実施 年3回以上 ⑤-2 「エシカル消費を身近なものと捉えることができる」と回答した生徒 70%以上  活動計画 ①-1 学力向上委員会において取組の検証を行う。  ①-2 4月に「高校生のための学びの基礎診断」に準じたテストを、9月と1月に学校独自のテストを実施する。 ①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケートを実施する。 ①-4 掲示物等での案内及び個別の声かけ等で、各種検定・コンクールへの受検・応募を促す。	評価指標の達成度 ①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 4回 ①-2 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストの実施 3回  ①-3 学校評価アンケート ・生徒授業満足度 80.9% ・職員授業充実度 95.6% ・保護者学力向上・学習内容充実度 77.9% ・生徒基礎学力に向けた取組満足度 普通教科 81.5% 専門教科 90.4% ・朝読週間生徒満足度 91.0% ・授業における新聞の活用度 46.7% ・定期考査期間中の家庭学習実施率 59.1% ①-4 各種検定・コンクールへの積極的な受検・応募 国語科2, 数学科1  ②-1 [農業] ・フラワー装飾・室内園芸装飾技能検定 (未来コンパス「キャリアプランニング」事業高度専門資格取得講座3級) 生物活用科3年 受験率 100% (10/10名) 合格率 90% (9/10名) ・フラワー装飾技能士検定3級 受験率 100% (8/8名) 合格率 87.5% (7/8名) ・日本農業技術検定3級 農業科学科, 生物活用科1年 受験率 92.1% (35/38名) 合格率 91.4% (32/35名) [商業] ・全商3級1種目以上 取得者 91.0% ・全商2級1種目以上 取得者 52.5% ・全商1級1種目以上 取得者 47名 ・全商1級2種目以上 取得者 9名 ・全商1級3種目以上 取得者 1名 ・日商簿記2級合格 0名 ②-2 県商業教育協会主催の様々な競技会への積極的な参加 5回 ③-1 公開授業週間の実施 3回 ③-2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った研究授業の実施 6回 ③-3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教科会の実施 6回 ④-1 主権者教育に関するホーテムルーム活動や学校行事の実施 5回 ④-2 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 67.2% ⑤-1 消費者教育（「エシカル消費」を含む）に関する学校行事の実施 5回 ⑤-2 「エシカル消費を身近なものと捉えることができる」と回答した生徒 79.1%  活動計画の実施状況 ①-1 学力向上委員会を3回開催し、「高校生のための学びの基礎診断」の導入及び学校評価について話し合った。また、生徒の意識調査の結果について職員研修を1回行った。 ①-2 「高校生のための学びの基礎診断」に準じたテストを4月、9月、1月に実施した。 ①-3 全校生徒、保護者及び教職員にアンケート調査を実施し、状況把握に努めた。 ①-4 国語科：漢字検定を2回受検 数学科：統計グラフコンクール出品	評価 総合評価 B (所見) ・①-3の結果について、昨年度から著しく変化した項目はない。昨年度同様、授業満足度について、生徒と職員との差が15ポイントほどあった。 ・定期考査期間中の家庭学習実施率を調査した結果、家庭学習をしている生徒が6割に満たないことが分かった。 ・農業科は、日本農業技術検定3級、室内園芸装飾技能士検定3級、フラワー装飾技能士検定3級で前年度と同様に高い合格率であった。 ・商業科は、検定取得者割合は目標値より低いものの、全商1級1種目以上取得者は目標値より17名多かった。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った校内での研究授業に加え、他校での研究授業や校外研修にも積極的に参加した。 ・主権者教育に関する取組は昨年度より増えたが、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が昨年度から比べて約10ポイント下がった(昨年度88.2%)。事前指導や事後指導が不十分であったためと考える。 ・エシカルクラブ(ビジネス部)を中心に、各教科や部活動、委員会活動など学校全体でエシカル消費に関する取組を実施した。その結果、「エシカル消費を身近なものとして捉えることができる」と回答した生徒が約8割となった(昨年度は「エシカル消費への関心が高まった」と回答した生徒が90.2%だった)。	○ 授業の満足度等に関して、保護者・生徒・教員それぞれの数値の差をどう捉えるか。その差を考えると ○ ワークライフバランス数値が低い点課題を減らすなど、何かをやらせなければバランスを重要度の低いものから切らなければならない。 ○ 企業は働き方改革を進めている。結果は変わらない。	・生徒による授業アンケートを職員個々の活用し、授業力向上の具体的な方策を考える。 ・家庭学習習慣を身につけさせる具体的な方策を考える。 ・農業科・商業科とも、来年度も引き続き各生徒が資格取得の意義を持つて補習等に積極的に参加できるように整える。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って、他校の研究授業や校外での研修などへの積極的な参加を促す。 ・主権者教育に関する各取組の事前事後指導を充実させる。

② 各種資格取得の奨励と補習体制構築による合格率の向上	②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。 ②-2 実施計画書に基づいて実施する。	②-1 検定前に掲示物やホームルーム等を通じて生徒へ周知し、検定前には全員補習を実施している。 ②-2 5 競技会・大会に出場 ・生徒商業研究・意見体験発表大会 意見体験の部優秀賞 ・珠算・電卓競技会 団体四国大会出場 ・ワープロ競技会 個人全国大会出場 ・情報処理競技会 個人全国大会出場 ・全商英語スピーチコンテスト 出場 ・徳島県国際教育振興弁論大会 出場			
③ 授業改善の推進	③-1 計画に基づいて実施する。 ③-2 研究授業を実施し、研究協議を通して授業改善を図る。 ③-3 公開授業週間後に、教科会を開き情報交換、情報共有を図る。	③-1 授業改善を計画に基づいて実施した。 ③-2 6月、11月に研究授業を実施し、授業改善の研究協議を行った。 ③-3 学期ごとに教科会を開き情報交換をに実施した。			
④ 公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施	④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施する。 ④-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。	④-1 主権者意識を高める教育を推進する学校行事（主権者教育講演会、模擬投票、年金セミナー、租税教室）を実施した。 ④-2 学校評価アンケートで「政治や選挙に対する関心は高まったか」を7月、11月に実施した。			
⑤ 各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施	⑤-1 事業計画書に基づいて実施する。 ⑤-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。	⑤-1 消費者教育を推進する学校行事（学年集会、学校祭）で呼びかけや展示を実施した。 ⑤-2 学校評価アンケートで「エンカル消費を身近なものと感じることができるようになったか」を7月、11月に実施した。			

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成



平成31年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
4 人権教育及び特別支援教育の推進	(全体レベル) ① 人権尊重を基盤とする普遍的・個別的な視点に立ち、学校教育活動全体を通して人権教育を推進する。 ② 自他を大切に作る心や態度を育成する。  ③ 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。  (下位組織レベル) ① 人権学習ホームルーム活動の充実  ② 人権啓発活動の充実  ③ 教育相談・特別支援教育の充実	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 70%以上 ①-2 人権教育教職員研修の実施回数 年8回 ②-1 人権映画会の生徒の満足度 80%以上  ②-2 文化祭展示用ポスター・標語・書道作品を作成する。 1年生全員提出  ②-3 人権の日の人権委員による啓発活動 年9回 ③-1 教育相談ケース会の実施回数 年1回 (必要に応じて適宜) ③-2 心とからだの健康調査の活用 年3回 ③-3 カウンセリング室の開放 週1回 ③-4 特別支援教育研修会実施回数 年1回 ③-5 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 適宜 ③-6 障がい者雇用希望者への職場見学、就労体験の情報提供 3件以上	評価指標の達成度 ①-1 生徒の満足度 83.7% ①-2 人権教育教職員研修 8回 ②-1 人権映画会を10月31日人権講演会に変更したため、満足度のアンケートは実施しなかった。 ②-2 1年生全員の生徒が1作品以上提出することができた。 ②-3 人権の日の啓発活動 9回 ③-1 教育相談ケース会 2回 ③-2 心とからだの健康調査の活用 3回 ③-3 カウンセリング室 毎週金曜昼休みに開放 ③-4 特別支援教育研修会 1回 ③-5 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 2回 ③-6 障がい者雇用希望者への職場見学、就労体験の情報提供 4件	評定 A B B	総合評価 B (所見) ・ 生徒による「人権の日」の啓発活動を毎月継続して実施している。2日前には生徒人権委員会で準備して、朝のホームルームにおいて人権委員が人権啓発文の発表を行っている。職員室においても同様の啓発活動を同時展開で行い、生徒・教職員とともに人権について考えるよい機会となっている。 ・ カウンセリング室での相談者数は1名であったが、保健室では時間を問わず養護教諭が相談を受けている。必要に応じて教頭・学年主任・担任が連携をとりながら対応し、4名(延べ10名)がスクールカウンセラーを継続利用している。 ・ 障がい者就業・生活支援センターに登録することにより、アレルギー症状や保護者の願いに考慮した見学先の情報提供をすることができた。	○ 人権教育は重要な役割を担っている。学力も大事ではあるが、生徒の中には考え方が未熟な者もいる。また、社会で疎外感を感じたときに学校で受けた人権教育に救われたという卒業生もいる。社会へ出てからも大切なことなので、人権教育に力を入れるべきだ。 ○ 人権ホームルームを通して教員と生徒の信頼関係はつくられる。ホームルームのなかは、生徒とのコミュニケーションツールの場となる。 ○ 生徒からのコミュニケーションは取りにくく、簡単ではないため、先生方から行う方がよい。 ○ 人権教育に力を入れている鴨商OBがいるので、検討してみてもどうか。先輩からの話は生徒の心に響く。 ○ カウンセリング室での相談については、昼休みだと人に見られることに抵抗を感じる生徒もいるのではないかと。授業中の方が利用しやすい場合がある。	・ 今後も人権に関する啓発活動を積極的に取り入れるとともに、生徒の満足度が高まるよう事前研修会や教材の工夫及びアンケートの活用など指導方法を検討する。 ・ 今後も引き続き、人権映画会や講演会を実施し、現代社会での様々な問題を研修し、教職員の指導力向上を図る。 ・ 同和問題は、人権教育の中でも非常に重要な問題であり、まだ完全に解決していない状況である。これまで、水平社宣言や就職差別、結婚差別などを学習してきたが、さらなる深化を図っていく。 ・ さまざまな悩みを抱える生徒の対応に教職員が対応できる十分な時間確保と、全教職員で共通理解を図り、声かけや観察を行い、すべての生徒が充実した学校生活を送れるように努める。
		活動計画 ①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図り人権ホームルーム活動内容を準備する。 ①-2 様々な人権課題について実態から学ぶ研修を実施する。 ②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。 ②-2 夏季休業中の人権学習課題として、生徒から啓発作品を募集する。 ②-3 「人権の日」の事前に人権委員会を開き、人権委員の研修を実施する。 ③-1 共通理解を図るため、教育相談ケース会を実施する。 ③-2 心とからだの健康調査を実施する。 ③-3 カウンセリング室を開放し、生徒個々の状態を把握し、外部との連携を図り対応する。 ③-4 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。 ③-5 相談内容に応じて、関係機関との連携・相談を図る。 ③-6 地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼する。	活動計画の実施状況 ①-1 人権意識調査を実施し、インターネットによる人権問題、偏見と差別、就職差別に関するホームルーム活動の事前研修会を5回実施した。 ①-2 人権ホームルーム活動を行う時は、事前の研修会を実施している。 ②-1 人権映画鑑賞を人権教育講演会に変更して実施した。 ②-2 募集した作品の一部を学校祭前日より本館から北館への2階の渡り廊下に1年間展示し、啓発に役立っている。 ②-3 「人権の日」の活動のため、事前に人権委員会を9回実施した。 ③-1 教育相談ケース会を年度当初と夏休み前に実施し、共通理解を図った。 ③-2 心とからだの健康調査を各学期に実施し、生徒の状況を把握して対応した。 ③-3 カウンセリング室の利用について、掲示や教育相談に関する文書を保護者に配布し、1名の相談を受け対応した。 ③-4 「徳島県教育委員会における障がいを理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」について、研修を行った。 ③-5 1・2学期は、該当がなかった。 ③-6 障がい者就業・生活支援センターの紹介を受け、職場見学に参加した。				

【備考】評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成31年度学校評価総括評価表

自 己 評 価				学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価				
	(全体レベル)	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
5 進路指導の充実	① キャリア教育を通して、望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。 ② 個に応じたきめ細やかな進路指導を徹底する。 ③ 進路先の確保及び定着化のための指導体制の充実に努める。	①-1 外部講師招聘回数 年3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 年3回 ①-3 進路補習実施 夏期休業中に5回以上 ①-4 企業見学・職場体験の実施 25事業所程度	①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・外ガイダンス実施 1回 ①-3 進路補習実施 夏期休業中6回 ①-4 企業見学・職場体験の実施 33事業所	A	B ( 所 見 )	○ 職場見学やインターンシップの訪問先において、教員が関わる時間を減らすことが、生徒の体験時間の確保にも繋がり意味も大きい。 ○ 高校3年間で身につけておいてほしいのは、質問力である。コミュニケーションに慣れていないためか、失敗を恐れて、分からないことを聞きたがらない子が多い。的確な質問力や挨拶ができる、柔軟な考え方もできる。 ○ お客様の喜びや理念がはっきりしないとモチベーションは保てない。意外とすごいことをやっているのだと思えるかどうか、モチベーション維持の肝となる。 ○ アルバイトの経験があると、自分で考えて先に動く力の大切さや必要性を知ることができる。 ○ SDGsの取り組みは、将来のことを考えるきっかけとなる。この考え方をしっかりと持った人は、企業理念を進める際にとても役立つ。 ○ 自分たちの仕事の世界にどのような影響を与えているのかを意識できるの方が、これから重要な人材になってくる。	・ 就職において、今年度はオリンピック景気などが要因となり、求人数が昨年度より増加したが来年度は増加が期待しにくいことから、就職希望生徒の職種・企業名など早期の実態把握を行い、マッチングも意識して、早めの求人開拓が必要である。 ・ 次年度は、就職はもろろんであるが、大学進学等の入試制度が変更されると、進学に対して放課後補習などより積極的にいき、生徒の学力の底上げを図る必要がある。 ・ 高校生が就職して、3年以内に離職するケースが、依然として高いことを考えると次年度は、1年生もしくは2年生において学年全ての生徒がインターンシップを経験できる環境を整える検討が必要である。
		②-1 保護者への説明及び情報提供 年2回 担任の面談実施回数 各人2回 ②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 年4回 ②-3 就職・進学資料の提供 年5回 ②-4 特別な支援を必要とする生徒の進路相談 随時	②-1 PTA総会において、保護者への説明及び情報提供 1回 担任の面談実施回数 各人2回以上 ②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 2回 ②-3 就職・進学資料の提供 5回 ②-4 特別な支援を必要とする生徒の進路相談 随時				
		③-1 企業訪問の実施 200事業所 ③-2 学年ごとに教員研修会を実施 年2回	③-1 企業訪問の実施 128事業所 ③-2 学年ごとに教員研修会を実施 1回	B			
(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況					
	① キャリア教育の推進	①-1 就職ガイダンス等において外部講師の活用を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。 ①-4 希望する生徒・企業と連携して実施する。	①-1・①-2 4月に1年生にはオリエンテーション、5月には全学年に進路ガイダンス、8月には3年生の就職希望者対象に就職ガイダンスを実施した。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施した。 6日間 7/22～7/29 ①-4 会社見学等を行った。				
	② 生徒一人一人の希望がかなう進路実現	②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ②-2 「キャリアノート」や「ポートフォリオ」を活用した進路ホームルーム活動を実施する。 ②-3 全校集会等を活用し、進路に対する啓発を行うとともに、進路委員を通じて各ホームルームに資料提供する。 ②-4 特別な支援を必要とする生徒に対し、担当教員や外部組織と連携して進路指導を進める。	②-1 PTAの研修として大学専門学校の見学会を実施した。 ②-2 「キャリアノート」や「ポートフォリオ」を活用した進路ホームルーム活動を実施した。 ②-3 全校集会等を活用し、進路に対する啓発を行うとともに、進路委員を通じて各ホームルームに資料提供した。 ②-4 特別な支援を必要とする生徒に対し、担当教員や外部組織と連携し、進路指導を進めた。				
	③ 生徒の離職率の削減	③-1 新規の企業訪問を実施するなど、積極的な進路開拓を行う。 ③-2 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。	③-1 新規の企業訪問や会社見学を実施するなど、積極的な進路開拓を行った。 ③-2 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施した。				

○ アグリやカフェ  
などでの経験は、  
成功体験や喜び、  
感覚の共有となり、  
生徒が働く際の自  
信に繋がっている。

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成



	<p>③ 自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進</p>	<p>いて、専任の教員が担当する。更に、各顧問等の指導により、アグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。</p> <hr/> <p>③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と環境美化委員が行う。</p>	<p>国大会に出場した。また、農業クラブにおけるプロジェクト発表は、2分野において県大会を勝ち抜き四国大会へと駒を進め、優秀賞を受賞した。農業鑑定競技会では、全国大会に2名が出場した。押し花アートは放美展に出品し、四国大学賞1作品、その他2作品が入賞した。</p> <hr/> <p>③ 1学期に1回実施した。2学期に1回実施できた。</p>			
--	--------------------------------------	--	---	--	--	--

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成31年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) ① 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。  ② 「新学校版環境ISO」承認取得校としての活動を推進する。  ③ 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ① 防災教育の充実及び自己の健康管理能力の育成  ② 節電・節水・ゴミの分別を行い、校内美化および適正な農薬散布の徹底  ③ 食育の実施	評価指標 ①-1 防災に関する情報提供 年5回以上 ①-2 避難訓練 年3回実施 ①-3 防災クラブの活動 年7回以上 ①-4 保健だよりの発行 年8回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年3回	評価指標の達成度 ①-1 防災に関する情報提供 5回 ①-2 避難訓練 3回 ①-3 防災クラブの活動 7回 ①-4 保健だよりの発行 8回 ①-5 各種講演会の実施 4回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 3回	評定 A	総合評価 C (所見) ・ 学校祭でも避難シミュレーションや防災一輪車運搬リレーを行い生徒が興味関心を持って防災へ取り組むよう工夫した。 防災講演会では、全校生徒がAEDを使った心肺蘇生法の実技や災害時の運搬方法を行い、防災時への意識を高めることができた。 ・ 校内炊き出し訓練を日本赤十字社、地域奉仕団の方にご指導いただき行った。ハイゼックス袋を使ったご飯の炊き方を身につけることができるとともに、ホットタオルの活用法を学ぶことができた。 ・ 電気の使用量は前年よりわずかに上回ったが、猛暑のため夏季の使用量が増えたためであると考察できる。水道の使用量は前年より大幅に上回ってしまったが、配管の老朽化による漏水によるものであった。 ・ 毎日の清掃活動に、前向きに取り組んでいる。ゴミが落ちていない整った環境に対しては、生徒と教職員に意識の差が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も防災士の資格を3名の生徒が取得することができた。学校、地域で活躍してもらえらると思われる。その他の生徒も災害時に冷静な判断や適切な行動がとれるよう、必要な知識を身につけさせていきたい。</li> <li>南海トラフ巨大地震に備え、学校としての防災力の向上強化をより一層図っていきたい。</li> <li>吉野川高校が避難所となった場合のシミュレーション図上訓練を地元の自主防災会員と本校の防災士が初めて行った。今後、継続的に行うとともに、学校全体で取り組む必要がある。</li> <li>清掃活動には真面目に取り組んでいるにもかかわらず、個人の持ち物について整理整頓が十分できていないことがあった。生徒一人一人の環境への意識向上を図っていきたい。</li> </ul>
		②-1 電気・水道の使用量が前年度を下回る。  ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 88%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 イオウ合剤の使用年1回以下	②-1 電気の使用量は前年度より約5%上回った。水道の使用量は前年度より約19%上回った。 ②-2 アンケート調査 生徒91.0% 職員86.7% ②-3 アンケート調査 生徒76.4% 職員88.9% ②-4 必要最小限度にとどめている。 イオウ合剤の使用1回	評定 D	・ ハザードマップなどを用いて、シミュレーションを試みるのもいいのではないか。実際どうなるか考えるいい機会となる。	
		③-1 食育通信の発行 年1回  ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	③-1 食育通信を3月に発行する。 ③-2 食育関連講習会の実施 3回	評定 A		
		活動計画 ①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認及び防災講演会を実施する。 ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。  ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 心肺蘇生法講習会・歯科保健指導等を実施する。 ①-6 保護者に検診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。	活動計画の実施状況 ①-1 防災計画を周知徹底するとともに、防災に関するイベント等を紹介した。 ①-2 ホームルームで地震発生時の対応の仕方や避難経路、避難場所、危険箇所を確認した。 ①-3 夏季休業中に防災に関する研修会に参加し、3名の生徒が高校生の防災士の資格を取得した。地域防災訓練では17名が参加した。また校内炊き出し訓練を実施した。 ①-4 保健だよりの内容は熱中症、AED、こころの健康、歯周病等を掲載した。 ①-5 心肺蘇生法講習会、熱中症予防対策講習会、薬物乱用防止教室を実施した。 ①-6 各健診ごとに1週間以内に保護者宛に通知した。 ①-7 就寝・起床時間、朝食、友人関係等の調査を行い、心身の健康課題把握に努めた。		・ 非常時の連絡手段はどうするのか。フェイクニュースなどに惑わされず、いかに正しい手段を得られるかが重要。	

【備考】評価における「評定」の基準】A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成